

令和5年度神奈川県立高等学校PTA連合会：第2回健全育成講演会（概要）

日時：令和5年9月16日（土）14:00～16:00
場所：ZOOM開催
テーマ：15年後の社会を生きるための進路づくり
後悔しないために、考えておくべきこと
講師：追手門学院大学 客員教授 倉部 史記 氏
聴講者：41人

講演内容

1. 15年後の社会はどのような？

今高校生を取り巻く社会は・・・

高校生に「何歳までに結婚したいか」と問うと「30歳まで」という回答が多い。しかしなぜ「30歳まで？」と問うと回答が返ってこない。生涯独身率は男性の場合1/3という調査報告もあり、一例ではあるが将来の捉え方に「何気ない保護者の影響」があるのではないかと？

これまでの世界ではなく、これから生きる社会を見据え将来を描いてもらいたい。

職業についても専門職が安泰とは言えない、小学1年生の65%は、今は存在しない職業に就くという予測もある。

専門知識は武器の一つと捉え、どのように将来を生きていくかは本人次第である。

一流企業も安泰とは言えない。必要な人材で居続けるためには、「学び続ける力」が求められていく。「一生学び続ける力」とは「強みとなるパーツを集めること」と言える。

2. 高校卒業のことを知っておこう

学歴で比較すると、4大卒の年収は50代頃に高卒の300万円以上になるケースも。

しかし、4大をストレートで卒業するのは平均7～8割程度、歯学部や薬学部はより低い。

なぜ留年・中退するのか？

- ・やりたいこと（学びたいこと）ではなかった。
- ・授業についていけなかった。

大学・専門学校のリアルな情報を収集する。「****学校 教育情報の公表」と検索する。

3. 保護者に求められる支援の在り方

- ・過干渉を避ける、しかし、放任過ぎない。（アドバイスをを行う）
- ・答えではなく「問い」かけてみよう。
- ・学びたいことの探し方は柔軟に考えて良い。選択肢を提示してあげることもときには有効。
- ・複数の武器は足し算ではなく掛け算の効果を生む。身につけたい武器を探すという視点を持つ。
- ・困っている人のために学ぶという選択もある。
- ・親としては過去の経験ではなく、今働いている現実や自身の課題を、同じ社会人として伝えてみてはどうか。

4. 質疑応答

Q：大学進学において予備校のアドバイスは必要か？

A：不可欠とは言わないが、大学入試の情報量は膨大なので、情報を買うという面では有効。

予備校に頼らず、直接大学に問い合わせても良い。